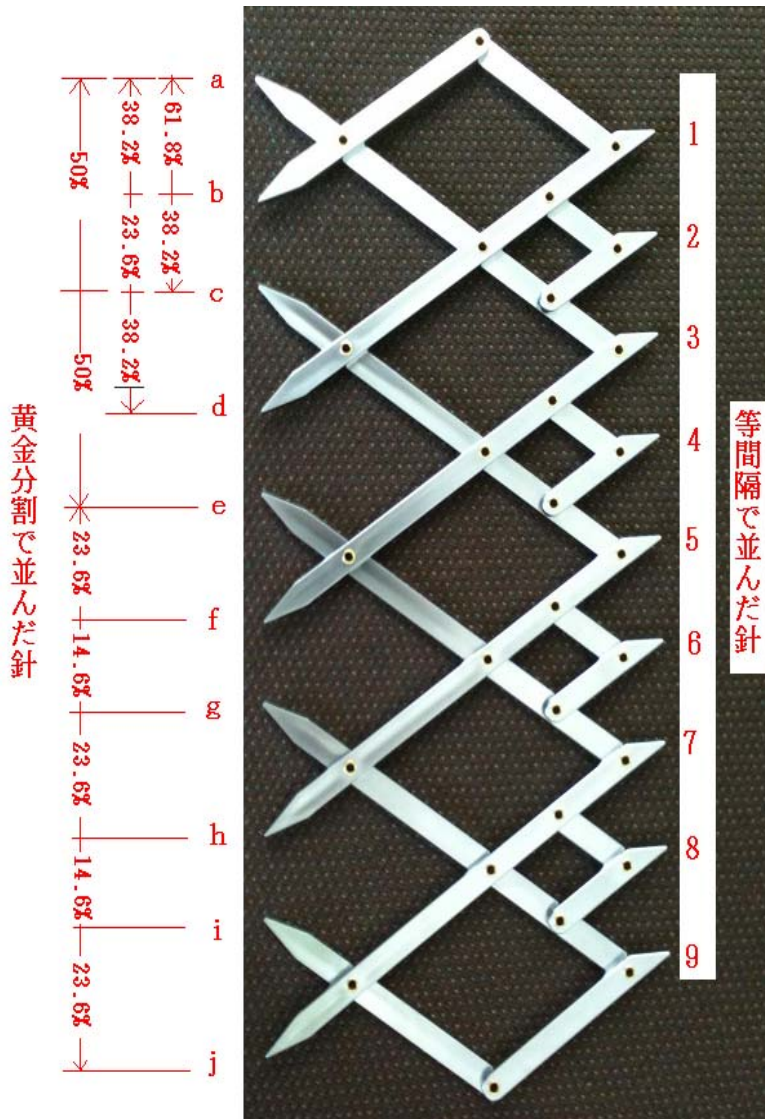


## ゴールデン・サイクル・ルーラー《タテ軸篇》



このルーラーの特徴は、左写真のように、左の針と右の針の間隔が異なっている事です。

針の幅が狭いほうが等間隔 (図の針1~9)、広い方が黄金分割となっています (図の針a~j)。

a~cの幅を1とすれば a~bは61.8%、b~cは38.2%。

a~dの幅を1とすれば a~b、c~dが38.2%、b~cが23.6%。またa~cは61.8%と、どこでも黄金分割となります。

もし50%の位置を確認したい場合は、a~eの針を対象とすればcの針が50%を指し示します。勿論50%を示したいときは等間隔の針1~3を利用すれば2が50%となります。

主にタテ軸では価格目標を探ります。

相場の修正安の値幅や戻りなどは日本古来の3分の1押し、半値の押し、3分の2押しなどを測定する場合は等間隔の針を利用します。50% (半値) を計測するのは上述したとおりですが、3分の1や3分の2を測定する場合は1~7の針を利用します。この場合、3の針が3分の1を指し、5の針が3分の2を指します。

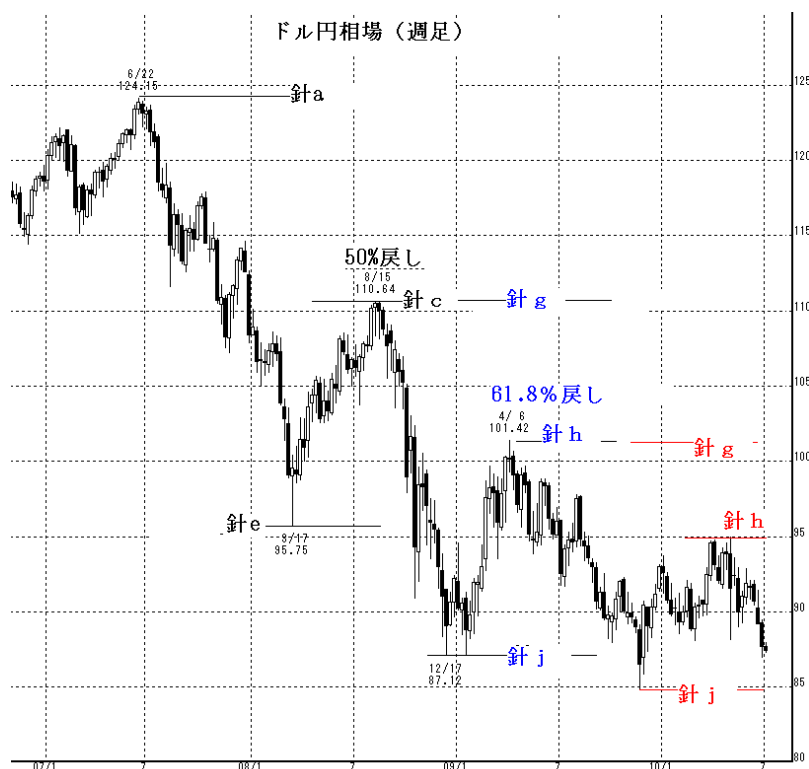
次に黄金分割は写真の通り、6本の針を利用すれば更に細かく黄金分割を導き出す事ができます。

## 実際の計測

下のチャートはドル円相場です。まずは黄金分割の針5本(a～e)を利用してみましょう。

最初に07年の天井である124.15円から下落してきた相場の戻りを見ていきます。天井から最初の下降波は08年3月に向けて95.75円まで下落しました。そこで、aの針を天井、eの針を3月の安値の値位置にあてます。すると、cの針の値位置に08年8月戻り高値110.64円が出現します。つまりこれは50%戻しだという事です。

次にルーラーの幅をそのまま変えずに、戻り高値の値位置にaの針をあてて見てください。dの針の値位置には08年12月の年初来安値87.12円とズバリ適合している事がわかります。



今度はこの安値からの戻り幅を計測してみます。先程の安値87.12円の値位置にjの針をおき、110.64円の値位置にgの針をあてて見てください。hの針が指し示している場所には09年4月の戻り高値101.42円の値位置が現れ、この戻りが61.8%戻しだったという事がわかりました。

その他、様々なところに黄金分割が隠れています。それを探し出すのは投資家の皆様です。

儲けるための一番の近道は自主研鑽です。ご自身で書かれた手書きチャートにルーラーの針をあて、目標価格に線を引き、さらに、ヨコ軸で計測したサイクルも記入していけば、ボトムや天井の時期、及び価格目標もおぼろげながら見えてくるようになります。

皆様の日々の努力が利益に結びつくのがこの投資の世界です。